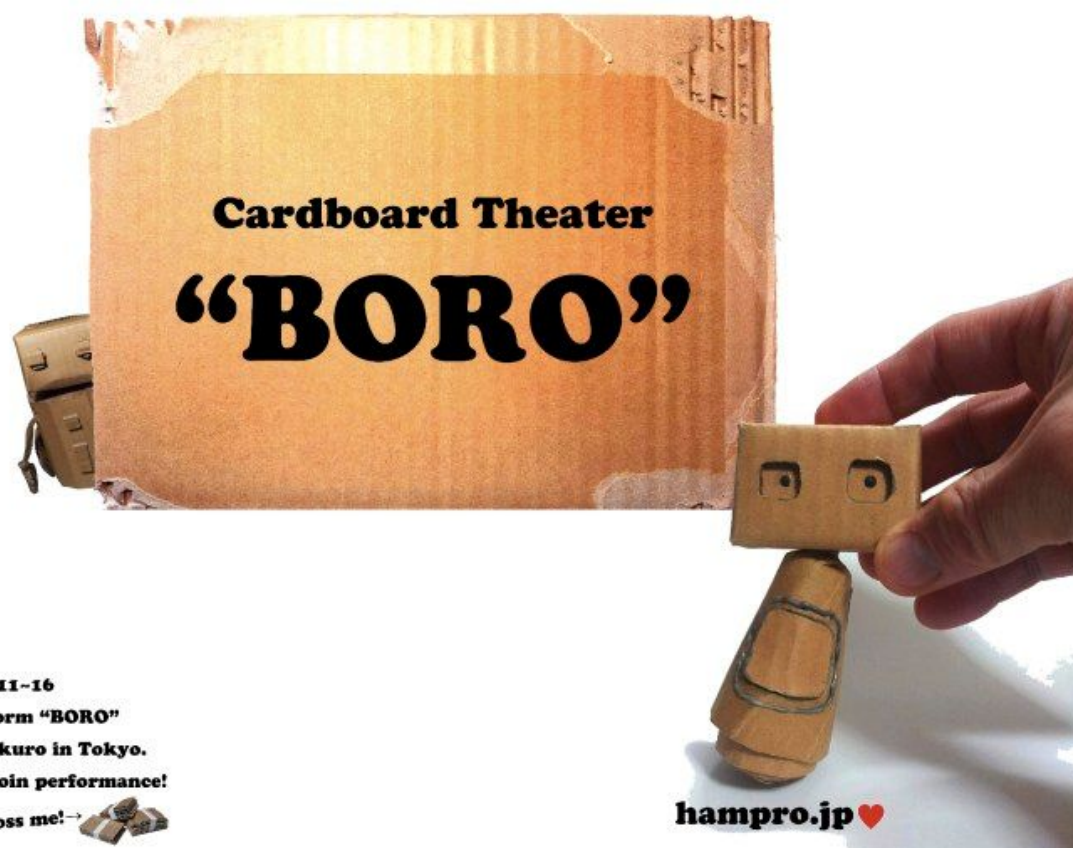


## ■ダンボールシアター『ボロ』札幌ハムプロジェクト

# 「大人向けの絵本みたい」

(東京公演感想より)



hampro.jp ♥

(東京公演用フライヤー画像)



<https://youtu.be/lxulhqkQrrY>

東京公演ダイジェスト動画(4分)

札幌ハムプロジェクト★ダンボールシアター『ボロ』感想まとめ <https://togetter.com/li/1298334>

# 心を豊かにしてくれる

(東京公演感想より)

## ■『ボロ』 あらすじ

記憶の悪いロボットの『ボロ』は、世界の色々な場所で仕事をしながら女の子を探している。

ロボットアームである「ワタシ」スクラップ場で発掘された彼は自分の過去を話し始めるが、ノートの最後に書かれたある事実で絶望してしまう。

「ボク、なんのために生きればいいのか？」

## 良い意味で期待を裏切られた

(東京公演感想より)



## ■公演概要

ダンボールシアターはダンボールで作る劇です。

ダンボールが木になり人になりロボになりおハナシになり世界に引き込まれる頃には、それがダンボールだけで出来ていることを忘れてしまいます。

水に弱いけど持ち運びの軽い、どんな物語でもできる可能性を秘めた“ダンボールシアター”は観客の想像力を引き出します。

## ■なぜダンボールなのか？

1、どこにでもあるからです。

用が済んだ途端に邪魔にされ、ゴミにされるダンボールは家庭にも社会にもあふれています。創造力により別の命を吹き込まれ物語や感動を生むことに意味があります。

2、誰にでもできるからです。

カッターと糊と物語があれば誰にでも劇ができます。観客が「自分でもできるかもしれない」と思いをめぐらせながら劇を観ることはとても重要なことです。

3、なんでも出来るからです。

ダンボールの可能性は無限大です。ダンボールの多層構造は立体の造形に向いており、加工を重ねると驚くほどの強度を見せます。細かい装飾や、簡単なギミックも作ることができるので、映画のようなスペクタクルも表現可能です。劇を見て行くうちにダンボールであるということを忘れる瞬間が必ずあります。

# たくさんの人に観てほしい できれば、海外の街角でも

(札幌公演感想より)



## ■なぜ各地で開催したいのか

札幌公演、東京公演での反響を見て、もっと多くの方にも楽しんでいただけると確信しました。各地で発表して批評をしていただくことは、ダンボールシアターにとって貴重な経験になると思います。

大人も子供もきっと誰でもお世話になったことのある、家庭では用が済めば邪魔者になるあのダンボールが、多くの可能性を秘めているということを体感していただけます。役者になり、小道具になり舞台になり劇になってしまう驚きや、「こんなことまでダンボールで出来るのか」という演出の数々が、ダンボールシアターには散りばめられています。

この演劇祭で批評されることを我々は心からのぞみ、楽しみにしています。

# 親子で観劇できる催しがあれば

(札幌公演感想より)

## ■開催地に対しての貢献

『ポロ』は子供から大人まで楽しめる作品ですが、我々はいわゆる子供用の劇として作品作りをしていません。にもかかわらず、ダンボールのキャラクターたちは、子供にも大人にもすぐに好かれます。

まだ演劇を観たことのない子供たちが、ダンボール人形でその開催地を知り、劇場やイベントに足を運ぶきっかけになるかもしれません。

公演ラインナップにダンボールが登場することは奇抜なことかもしれませんが、新しいラインナップとして多様性に一役買えると思えます。



# 泣くとは思わなかった

(札幌公演感想より)

## ■伝えたいのは

『ポロ』という作品で問うテーマは「生きる意味」です。劇中でポロが持っている宝物『星の王子さま（サン・テグジュベリ）』の絵本でも示唆しています。子供は遊ぶことが生きる意味ですが、大人はそうも行きません。

遊びの無い生活は心を疲弊させます。本当は誰の心の中にもあるのについ忘れてしまう純真さをたまには思い出して、再び社会と取り組むために、物語や芸術があります。

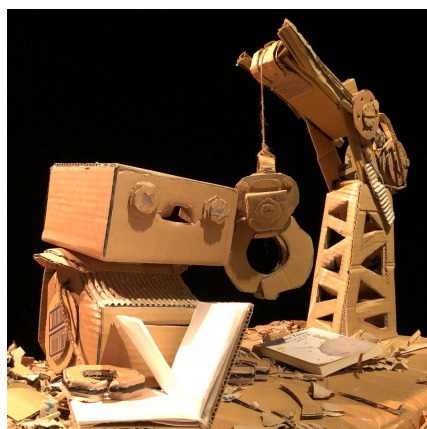
観終わった後に気持ちに余裕が生まれ、また明日から頑張ろうと思える作品づくりを心がけています。

# 久しぶりに心が踊りました

(札幌公演感想より)

# 創りが精巧で雰囲気が出ていた

(札幌公演感想より)



## ■ダンボールシアターの短所長所

短所としては普通の舞台セットや小道具や役者と比べて、水に弱く壊れやすい、そして資源ゴミと間違われやすいことですが、そこは万全の体制でのぞみます。

長所は軽さ。ダンボール自体の軽さはさることながら、フットワークの軽さ、グレードアップの手軽さ。ダンボール役者に宿も飛行機も必要ありません。

上演するたびに劇の精度が上がって行くのは、当たり前のことですが、ダンボールシアターは録音と造形での構成をとっているため、演出上の修正が次のステージにすぐに活かされます。作品の成長スピードが早いです。

# ダンボールを演者1人で 多彩な世界へ導く

(東京公演感想より)



## ■演者と人形との関係

ダンボールシアターにおいて役者はダンボールで作られた人形です。

演者は彼らを操るというよりは、人形が物語の中での責務を果たせるよう「お世話をする係」です。

演者は、子供たちの目には「ダンボールのお人形で遊んでいる大人」に映ると思います。

我々はこのカタチを追求してみようと思います。

# 切なくて暖かい(T\_T)

(東京公演感想より)

## ■今後のダンボールシアター

この持ち運びの軽いダンボールシアターを全国各地・世界各国で上演しようと企画しております。

ダンボールを造形するワークショップや、団体を立ち上げて構成員を増やし、もっと大きな作品やさらに緻密なギミックを用意して行くつもりです。

各地のフェスティバルへ参加をし、レパトリーとなる作品を産み出しさらなる差別化を図ります。





◎ 作・演出ノすがの公プロフィール：

札幌ハムプロジェクトプロデューサー・作演出役者。北海学園大学演劇研究会から演劇を始め、劇団イナダ組に数年所属。劇団SKグループを9年運営。2004年より札幌ハムプロジェクトを立ち上げワゴンで全国巡演。2009年「若手演出家コンクール2008」優秀賞&審査員特別賞受賞。2011年より東京支部を設立し、演劇カンパニー“東京の人”運営、「小さい」演劇祭シリーズを主催。2012年より札幌座ディレクターを兼任する。

<札幌ハムプロジェクト>

札幌本部員7名、東京支部員4名からなる演劇企画運営団体。目的を「独自の演劇公演の模索と向上及び、地域演劇の活性化」とし、主たる企画は車一台で日本全国を巡演する『日本縦断興行』、東京支部で主催する『小さい演劇祭シリーズ』など。我々札幌ハムプロジェクトは幌と東京の拠点にて制作した劇を全国各地へ持ち回って公演しています。昨年は札幌、新潟、金沢、東京、名古屋、大阪、香川、松山。一昨年までには韓国プサン、テジョン、ソウルでの公演もして参りました。

団体名	札幌ハムプロジェクト
連絡先	ダンボールシアター問い合わせ danboruno@gmail.com (担当 渡辺ゆば)
団体概要	<p>設立年 2004年 これまでの主な上演実績</p> <p>2006年2月「東京国際芸術祭リージョナルシアターシリーズ」参加 (『再演A。』)</p> <p>2007年2月「こまばアゴラ劇場・冬のサミット2006」参加(『B計画』)</p> <p>2009年3月「若手演出家コンクール2008」優秀賞&amp;審査員特別賞受賞 (『アイドゥ・アイドゥ』)</p> <p>※以上、前身団体であった劇団SKグループとして</p> <p>2014年11月韓国ソウル・テジョン演劇祭招聘(『カラクリヌード』)</p> <p>2015年12月北海道戯曲賞最終選考 (『戦うゾウの死ぬとき』)</p> <p>2016年 2月「札幌演劇シーズン2016-冬」参加(『カラクリヌード』)</p> <p>2017年 5月「第14回釜山国際演劇祭」参加(『カラクリヌード』)</p> <p>2017年10月「韓国テジョン演劇祭」参加(『サンタのうた』)</p> <p>※以上、札幌ハムプロジェクトとして</p>